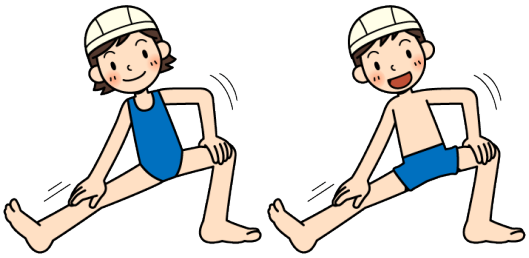
今、体育・保健体育科で目指したい授業　その2

－ 平成 25 年度学校教育指導の重点(福島県教育委員会)から －



教科や分野の目標を達成するには、学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の改善・充実が重要です。そのための参考になるのが、『平成 25 年度学校教育指導の重点(福島県教育委員会)』に示されている「学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のポイント」です。

小学校体育科における各ポイント（ブルーの枠内）を、どのように学習活動につなげることができるか、実践例などから紹介します。

なお、４つのポイントが示されており、今回はポイント１，２，次回は３，４と、２回に分けて紹介します。

《体育科（小学校）》

ポイント1　児童の実態と教材の価値を踏まえた指導計画の作成

○　幼稚園及び中学校教育との円滑な接続を考慮し、児童の実態等を踏まえた指導内容の明確化・体系化を図る。

○　指導内容の確実な定着を図ることができるよう、２年間を見通して運動の弾力化を図る。

実践１　学習指導計画を授業者全員で確実に理解しましょう。

各校ではすでに、小学校６年間の見通しにたって、バランスのとれた学習指導計画が作成され、実践されていることと思います。まずは、その計画を、授業者全員が共通理解し、共通実践に努めることが大切です。

体育主任を中心に、授業担当者間で指導内容や評価の観点の確認を繰り返し行うことで、意図的、計画的な学習指導が展開しやすくなります。

なお、幼稚園との接続には、平成２４年６月に文部科学省から出された『幼児期運動指針ガイドブック』が有効です。

www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm

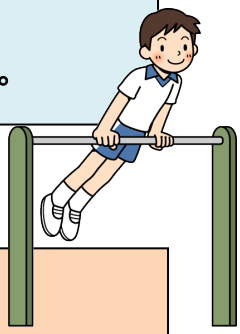
小学校でも活用できる運動が、たくさん紹介されています。ぜひご覧ください。

実践２　自校の「体力向上推進計画」を活用しましょう。

子どもたちの実態に応じた、適切な指導を行うには、「体力向上推進計画」を活用することが効果的です。まずは、自校の「体力向上推進計画」の内容を、授業者間で共有しましょう。「体力向上推進計画」には、各校の実態や課題、目標が記されています。せっかく作成した計画です。有効に活用しましょう。

ポイント2　わかる･できる授業の展開

- ○　単元の目標や前時の成果と課題から、本時の学習課題を明確にする。
- ○　主体的に運動や保健学習に取り組むための手だてを工夫する。
  （場の設定・教材の工夫等）
- ○　基礎的な身体能力や知識の習得を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための学習活動を工夫する。
- ○　学習内容が身に付いていない児童に対する支援の場や方法を具体化する。
- ○　学習の振り返りやまとめの時間を運動量とのバランスを考慮して確保する。



実践３　「単元指導・評価計画」を作成しましょう。

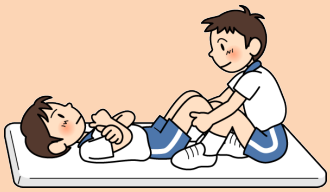
授業者は、「この単元で、どのような力を育み、そのために何を教えるべきなのか」など、具体的な目標の設定と指導過程をイメージすることが大切です。そのためには、「単元指導・評価計画」を作成するとよいでしょう。毎時間ごとの「学習のめあて」、そこへ到達するための「学習内容」、そして「評価の観点」などを確認することで、意図的・計画的な学習指導が可能となります。

実践４　毎時のめあてと評価の観点を１つに絞りましょう。

毎時のめあてを一つに絞ることで、学習（指導）活動や評価の観点が明確になります。よって、子どもたちにとっても、本時に取り組むべきポイントが絞りやすくなります。焦点を絞った授業での子どもたちの動きは活発です。

実践５　可視化しましょう。

「動き」を言葉で説明し、理解させることはとても難しいものです。走る姿や器械運動を行う様子などを、ビデオや図を用いて解説することで、子どもたちは、正しい動きと、課題となっている動きを理解することができます。よい動きだけでなく、失敗の原因となる動きも理解させると、より注意力が高まります。



実践６　観察や学習カードからヒントを見つけて支援しましょう。

授業者は、学習活動につまずいたり、自信を失ったりしている子どもがいないか、常に配慮する必要があります。原因を探る上でも、観察や学習カードへの記入、教え合い活動など、言語活動を取り入れることが有効となります。

実践７　学習活動を振り返る時間をつくりましょう。

毎時間ごとの「学習のめあて」にどの程度到達したのか、また、どこが不十分なのかを子どもたち自身が理解する必要があります。授業者のまとめの話だけでは、各自の満足度は高まりません。学習カードを活用した自己評価は有効です。ただし、本時のめあてからかけ離れた内容では、正しく自己評価ができません。本時のめあてに対する記述がされるよう、授業者は工夫する必要があります。

次回は、ポイント３、ポイント４について取り上げてみます。